

天沼小だより



校長 大里 忠弘

親である皆さんはお子さんをほめていますか。どんな時にほめますか。

何か頑張ったとき すべき事をしっかりとできたとき できなかったことができるようになったとき
良い結果が出せたとき

こんな場面が多いでしょうか。子どもを励ましたり、感謝したり、一緒に喜ぶことはとても大切です。でも、こればかりでは子どもは大変になります。こういうほめかたには、「ほめてもっとがんばらせたい」という親の気持ちが透けて見えるからです。

ある女性の回想談です。彼女は6歳のころ、心と疑問に思ったことがあって、大人になっても覚えているというのです。彼女はよく親の手伝いをする素直な子でした。ある日お手伝いに窓拭きをしていると、いつものように母親にほめられました。そのとき「もし、わたしがお手伝いをしなかったら、ほめてもらえないのかな？がんばらないと嫌われるのかな？」と思ったそうです。その後も物事をサボるようなことはありませんでした、疑問はずっと残ったそうです。

子どもは、親に嫌われたくなくて頑張りすぎてしまうことがあります。本当の気持ちを隠し、本当にやりたいことよりも親の期待を優先してしまう子もいます。

子どもが親の愛情を実感するのは、自分が親に丸ごと受け入れてもらえたときです。

「がんばったら」「ちゃんとできたら」「よい結果を出したら」「よい子にしていたら」ほめられて、かわいがってもらえるというのは条件付きの肯定です。

心の深いところではみんな次のように願っているのです。

がんばらない自分でも受け入れて欲しい ちゃんとできない自分も許して欲しい

よい結果を出せない自分も愛して欲しい ありのままの自分も肯定して欲しい

どんな自分でも大切にしたい

お子さんには、次のように声をかけてあげて欲しいと思います。目の前のお子さんを、何の条件もなしに丸ごと肯定する言葉、無条件のほめ言葉です。

生まれてきてくれてありがとう 大好きだよ ママとパパのところに生まれてくれてありがとう あなたがいてくれてママもパパも本当に幸せ あなたを見てると幸せな気持ちになるよ あなたはママとパパの大切な宝物 どんなあなたでも大好きだよ。

本人が何かで落ち込んでいるときは、もっとはっきり「テストの点が悪くてもあなたは大切な宝物」「失敗しても大丈夫。あなたのことが大好き」「算数が苦手でも関係ないよ。あなたのことが大好きだよ」「片づけが苦手でもあなたのことが大好きだよ」と伝えてあげてください。

日本人はこういう言葉を口にするのを恥ずかしがります。「言わなくても伝わる」と思っている人もいるでしょう。でも、やはり本人にしっかり言ってあげてください。そうすれば、子どもはとても喜びます。寝る前などがいいかも知れません。できたら毎日言ってあげてください。口で言うのが難しいなら、ちょっとした手紙などで伝える手もあります。書き言葉の方が伝えやすいこともありますので。

「どんな自分でも無条件に愛されている」と感じられれば、子どもは心が満たされて安らかな気持ちになります。自分の心が満たされているので、兄弟にも友達にも優しくなれます。親の願いを最優先にする必要もなく、自分の気持ちを大切に自分らしく生きていくことができるようになります。